

令和8（2026）年度  
入学試験問題  
（11月入試）

一 般

専 門 科 目

受 験 上 の 注 意

1. 試験開始の合図があるまで試験問題を開いてはいけません。
2. 受験者は、すべて試験監督員の指示に従ってください。
3. 試験時間内の退室はできません。
4. 解答用紙のみ提出してください。
5. 試験時間は60分です。

（会計専門職研究科）

会計専門職研究科  
令和 8 (2026) 年度入学試験問題 (11 月入試)

**【 簿 記 】**

- 【1】 下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、**勘定科目は、次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと**（解答に用いない勘定科目も含まれている）。なお、当社の決算日は 3 月 31 日である。また、各取引に関連はないものとする。計算にあたって端数が生じる場合には、円未満を四捨五入すること。

現 金	当 座 預 金	受 取 手 形	支 払 手 形
売 掛 金	買 掛 金	未 収 金	未 払 金
車 輛 運 搬 具	繰 越 商 品	売 上	仕 入
減 価 償 却 費	減 価 償 却 累 計 額	固 定 資 産 売 却 益	固 定 資 産 売 却 損
広 告 料	繰 延 税 金 資 産	繰 延 税 金 負 債	法 人 税 等 調 整 額
手 形 売 却 損	保 証 債 務	保 証 債 務 費 用	返 金 負 債
投 資 有 価 証 券	有 価 証 券 利 息	貸 倒 損 失	貸 倒 引 当 金
本 店	本 店 か ら 仕 入	支 店	支 店 へ 売 上

1. 決算日に金庫内を実査したところ、広告料 30,000 円の支払いのために 3 月 10 日に振り出した小切手が、まだ金庫内に残っていることが判明した。なお、この小切手については、3 月 10 日に支払済みとして会計処理がなされている。
2. 当期中の商品販売に際して受け取っていた約束手形（額面 100,000 円）を取引銀行で割り引き、割引料 1,500 円を差し引かれ、残額を当座預金とした。なお、当該手形の保証債務の時価は額面の 3% であると見積もられた。
3. 得意先 A 社に原価@100 円の商品 80 個を売価@120 円で掛け売りし、適切に記帳していた。ところが、引き渡した商品のうちの 5 個が注文とは異なる商品であるとの指摘を A 社より受け、該当する 5 個の商品の返品を受け入れた。受け入れた商品はあらためて原価以上の価格で販売することが可能である。
4. 得意先 10 社に商品を 30 個ずつ、合計 300 個を売価@150 円で売り上げ、当該商品の引き渡しを行うとともに代金は得意先振出しの小切手で受け取った。得意先には返品権を付与しており、当社は販売した商品のうち合計 20 個が返品されると見込んでいる。このときの収益を計上するための仕訳を示しなさい。（売上原価や返品資産に関する仕訳は不要）
5. 得意先 B 社が倒産し、B 社に対する売掛金 55,000 円が回収不能となった。回収不能額のうち 32,000 円は前期の販売から生じたものであり、残額は当期の販売から生じたものである。なお、貸倒引当金の勘定残高は 160,000 円である。

会計専門職研究科  
令和 8 (2026) 年度入学試験問題 (11 月入試)  
**【 簿 記 】**

6. 当期首に、営業用の乗用車 150,000 円を翌月末払いの条件で購入し、従来使用していた乗用車 (取得原価 120,000 円、期首における減価償却累計額 108,000 円、間接法で記帳) については、18,000 円で下取りされることとなった。この下取価格は新車代金の支払額から差し引くこととされた。
7. X4 年度の決算で、X1 年 4 月 1 日に取得した備品 (取得原価 : 40,000 円、残存価額 : 0 円、耐用年数 : 5 年、期首減価償却累計額は各自計算) について減価償却を行う。減価償却方法は定率法 (200%定率法)、記帳方法は間接法とする。(改訂償却率 0.500、保証率 0.10800)。
8. X4 年 4 月 1 日に、C 社社債 (額面総額 ; 500,000 円、利率 : 年 1%、利払日 : 毎年 3 月 31 日、償還日 : X9 年 3 月 31 日) を額面 100 円につき 98 円で購入し、満期保有目的の債券に分類した。購入した C 社社債には利払日ごとの利札が付されている。X4 年 3 月 31 日における当該社債の利息に関する仕訳を示しなさい。なお、当社は購入した社債について定額法による償却原価法を採用している。
9. 当期の決算において、減価償却費の償却限度超過分 6,000 円が損金不算入となり、また貸倒引当金繰入額 5,000 円も損金不算入となった。このため、法人税等の実効税率 40%を基に税効果会計を適用する。
10. 当社は支店独立会計制度を採用している。当社の支店が、本来は当店 (本店) を通じて仕入れている商品を直接当店の仕入先から 6,000 円で掛により仕入れたので、本店が仕入れた後に本店から支店に発送したものとして処理する。なお、当店 (本店) は支店に商品を発送する際に、原価に 10%の利益を加算している。当店における本店としての仕訳を示しなさい。

**【2】** 次の [資料 I] [資料 II] にもとづいて、精算表を作成しなさい。ただし、会計期間は X2 年 4 月 1 日から X3 年 3 月 31 日とする。

[資料 I] 未処理事項

1. 金庫の中を確認したところ、未処理の配当金領収証 2,500 円が見つかった。
2. 銀行に取立依頼していた得意先振出しの約束手形の決済代金として 45,000 円が当座預金の口座に振り込まれていたが、この通知が銀行から届いていなかった。
3. 当年度中の売上状況を精査した結果、取引先 C 社に対し 3,000 円の売上割戻を実施する要件を満たしていることが判明した。

会計専門職研究科  
令和 8 (2026) 年度入学試験問題 (11 月入試)  
【 簿 記 】

[資料Ⅱ] 決算整理事項

1. 受取手形および売掛金の期末残高に対し、3%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
2. 期末商品棚卸高は次のとおりである。なお、売上原価の計算は「仕入」の行で行い、棚卸減耗損と商品評価損は精算表上独立した科目で示すこと。

帳簿棚卸高	数量 500 個	原価	@98 円
実地棚卸高	数量 460 個	正味売却価額	@96 円

3. 当社が保有する有価証券は D 社株式および E 社株式である。D 社と E 社はともに当社の関連会社であり、それらの会社の発行済み株式数に対する当社の所有株式数の割合はいずれの会社についても 20% である。これらの株式の簿価および期末の市場価格は次頁のとおりである。

	株 数	簿 価	期末の市場価格
D 社株式	1,000 株	@ 200 円	@ 190 円
E 社株式	1,200 株	@ 400 円	不明

なお、E 社は経営状況が非常に悪化しており、当期純損失の計上が続き、当期末の決算後の純資産額は 980,000 円になっていることから、実質価額が著しく低下している。

4. 固定資産の減価償却を以下の方法で行う。なお、固定資産はすべて各年度の期首に取得している。また、月次での減価償却は行っておらず、1 年分の減価償却費を一括して期末に計上する。小数点以下の端数が生じる場合には、四捨五入する。

車輛運搬具	： 生産高比例法	残存価額	： 0
		総走行可能距離	： 200,000km
		当期の走行距離	： 50,000km
建物	： 定額法	耐用年数	： 40 年
		残存価額	： 0

5. 保険料 60,000 円は X2 年 9 月 1 日からの 1 年分の火災保険料である。
6. 長期借入金 375,000 円（年利率は 3%）の借入日は X2 年 8 月 1 日であり、利払日（現金払い）は 7 月末日と 1 月末日（年 2 回）である。利息は月割りで計算する。
7. 受取地代 180,000 円は X2 年 11 月 1 日から 1 年分を受け取ったものである。

受験番号					

※ 氏名は記入しないこと！

## 解答用紙（専門科目） 【簿記】

評 点	/ 100
--------	-------

熊本学園大学大学院  
会計専門職研究科

【1】

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

受験番号

※ 氏名は記入しないこと!

## 解答用紙 (専門科目)

### 【簿記】

熊本学園大学大学院  
会計専門職研究科

【2】

### 精 算 表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	69,800							
当座預金	94,500							
売掛金	337,500							
受取手形	80,000							
繰越商品	55,000							
車輦運搬具	460,000							
建物	884,400							
土地	950,000							
関連会社株式	680,000							
買掛金		70,000						
長期借入金		375,000						
貸倒引当金		8,250						
車輦運搬具減価償却累計額		276,000						
建物減価償却累計額		420,090						
資本金		1,800,000						
繰越利益剰余金		212,500						
売上		3,110,000						
受取地代		180,000						
仕入	2,130,000							
給料	650,640							
保険料	60,000							
	6,451,840	6,451,840						
( )								
貸倒引当金繰入								
棚卸減耗損								
商品評価損								
有価証券評価( )								
減価償却費								
( ) 保険料								
支払利息								
( ) 利息								
( ) 地代								
当期純( )								